

森の利活用で心豊かな暮らしに貢献する

上川管内・下川町 NPO 法人森の生活

森林は木材を産出するだけでなく多くの動植物を育み、水を蓄え、人の心に安らぎを与え、昨今では海川の生物にとっても欠かせない存在と知られるようになった。しかし、このことに思いを馳せる人はそれほど多くはない。そんな、森林と人とのかかわりの大切さを人々に知らせ、森が身近にある心豊かな暮らしを実現してもらおうと活躍しているのがNPO 法人「森の生活」だ。

次々と提案、展開する森と人とのかかわり活動が多くの人々の共感呼び、ファンは増える一方。森が日常にある生活に魅せられて家族ぐるみ下川へ移住する都会人も多く、過疎の歯止めを願う地域の人たちにとっても、かけがえのないパートナーとなっている。

■ 森林の若い担い手の発想が原点

「森の生活」が誕生した背景には、下川町の森林を中心としたまちづくりと、それを全面的に支えた若手の森林研究グループ「さーくる^{しん}森人類」（新人類をもじった名）の存在がある。

下川町はもともと森林のまち。それが戦中、戦後の木材の大量需要に応えるように発展したが、安価な外材の輸入等により林業・林産業が低迷。同時にマチの経済の一

翼を担っていた金銅の鉱山が相次いで閉山し、地域は大きく疲弊した。

そんな町が、まちの建て直しの方策として1950年代（昭和28年前後）に選んだ道は、やはり森林による地域づくりだった。色々な策が講じられた。1996年（平成8年）に行われたのが本州の都会人を対象とした「森林・林業体験ツアー」。森とは縁遠い都会人に、森林のある暮らしのすばらしさを知ってもらおう、という狙いだった。折からバブルが弾け、環境（自然）重視、エコの風が吹き、都会の人たちは田園や森林に癒しを求めていた。



枝払いを終えて、満足の笑顔を浮かべる麻生さんらスタッフ

これには東京、横浜、名古屋、大阪などから31人が参加。全員、林業は素人ながら町の用意した「体験の森」というトドマツ林で、下草刈りから枝払い、間伐などを体験。さらに森林ウォーキングで林の中を歩く快感を味わい、記念植樹をして2泊

3日の日程を終えた。この時の参加者の反応は「魂の安らぎを感じた」、「仕事は大変だったけれど楽しく充実した3日間でした」などと上々の評判。

この催しを、中心になって支えたのが、それより少し前に森のある生活にあこがれて東京、名古屋などから移住してきて、新しい森林経営のあり方を研究していた「さーくる森人類」の面々。「体験ツアー」の一行の反応と、自分たちの経験から「これからの森林経営は単に森林管理、木材生産に止まらず、森林と人間、動植物との関係など多角的な視野に立ち、地域社会との協同作業の中で総合的に展開すべき。その重要な役割を担うのは森林NPOだろう」

(さーくる森人類・富岡達彦代表=東京の地下鉄車掌から家族5人で下川町へ移住した1ターン組の1人)と、NPOによる森林総合経営の必要性を提唱した。



「美桑が丘」にある管理棟の裏庭で、新しい構想を練る麻生理事長

■ NPO「森の生活」誕生

この思想をそっくり受け継いで2005年(平成17年)に誕生したのがNPO法人「森の生活」。「さーくる森人類」を母体とした20人で、初代代表には同会の奈

須憲一郎さんが就いた。当初はデスクワークが主だったが、次第にフィールドワークに移行し、森林の調査、教育、遊び、保全、癒し・療法活用、情報提供などと活動の幅を広げていった。

この活動にボランティアとしてお手伝いに来ていたのが2代目、麻生翼(あそうつばさ)現理事長(30)。麻生さんは名古屋出身。北の大地にあこがれて北大農学部林産系で学び、下川町や、もう少し北の中川町にある同大演習林に実習で通ううち「森の生活」の存在を知った。奈須代表が同郷であったこともあってボランティアをしていた当時から「将来は自然に囲まれたこんな地域で暮らせたらいいな」と、漠然と考えていたそう。だが、大学を卒業後は京都の種苗会社に就職、サラリーマンに。そんな折、奈須さんから「人手が足りないので力を貸してもらえないか」と、誘いの話。

学生時代からあこがれていた森林のまち。矢も楯もたまらず、当時付き合っていた現夫人で北大先輩の綾子さんと一緒に下川町へ移住、「森の生活」のスタッフとして町民の1人(2人)になった。2010年(平成22年)のことだった。ここの活動の理想や内容を熟知していたので仕事をマスターするのも早く、3年後の2013年(同25年)、奈須さんから後任を託され理事長になった。

■ 活動は多岐に渡り活発

「森の生活」の活動は当初の理念通り、森林に関するすべての事柄が対象で、多岐

に渡るが、大きく分けて3つ。「森を体験する」、「森のまちづくり」、そして「森を届ける」だ。これを麻生理事長以下9人の男女スタッフと33人の会員、それに町役場や森林組合、町民有志らの協力でこなしている。スタッフ9人のうち8人までが本州出身者というのもユニーク。2013年度の活動状況を見ると一。

“森を体験する” かねてから行っている都会人を対象とした森林体験ツアーに、新たにトドマツの枝葉から芳香精油を抽出する蒸留体験を加えて実施。延べ300人ももの都会の人々が、ゴム長ぐつにヘルメット姿で林業や森林ウォーキングに参加し、森林と共に暮らす心持良さを満喫した。ほかに森林に浸って身心を整える森療法にも取り組んだ。

自治体や大学と連携して、森を活かした学びの場提供も活発。東日本大震災で被災した福島県の小学生を招き、励ます「ふくしまキッズ」に対応したのをはじめ、各大学の学生を受け入れての森林研修、森林環境教育、町と協力しての「家族でツリーとリースを作る催し」など盛り沢山。また、地域間交流の場としての滞在型コテージ「森のなかヨックル」を管理運営し、1,600人あまりの人々に自炊宿泊をしてもらいながら、森林の楽しみ方や畑作業を体験してもらった。

“森のまちづくり” 町から、町内外の老若男女がこぞって憩える里山を創って欲しいと、「美桑が丘」という2.3ヘクタールの雑木林を託された。そこで、小、中

学生や親子連れ、高齢者に年10回ほど集まってもらい、下草刈りや枝払いなどの実践を勉強してもらいながら遊歩道や広場を造成、ブランコやシーソーを作った。まだ、完成途上だが、月1回開いた「みくわの日」には、造成に参加した小中学生をはじめ、乳母車を押す親子連れらがわんさと押しかけ、ブランコ遊びや木登り、ターザンごっこ、林中劇場を楽しんだ後、「森の生活」の管理棟裏の庭園でバーベキューパーティーをエンジョイ。この森に住むリスやキツネも時折顔を見せ、森の中で思い切り遊び回る腕白たちと仲良しになっている。



公園にはチェーンソー彫刻も飾られて、いかにも森林のまちのたたずまい。後ろの森は里山「美桑が丘」

これと平行して、森林づくりにはそれを支えるには「人づくり」が大切と、町内の幼児から小、中、高生まで、成長段階に合わせたプログラムで15年一貫の森林環境教育を行い、これがまた里山づくりに役立つなど、次世代へのバトンタッチも怠りない。さらに北大や地元名寄市立短大などの学生らとも連絡を取り合い、地域や森林づくりの講師や実践を通して、若い森林人の育成にも努めている。

“森を届ける” 森で生産された木材や、それを加工しての家具やクラフト、トドマツの枝葉から抽出したエッセンシャルオイルの販売など、これまでも生産、販売を通じて一般に“形を変えた森”を届けてきた。これだけでは不十分と、来年（2015年）からは木材製材の際に出る色々な樹種や大きさの異なる端材を家具、調度、クラフト用材などとして売り出す計画を立て、その材を乾燥させる小型乾燥機一台も既に設置している。また森林環境教育の内容を一層充実させ、請われればどこへでも出向く「出前講座」も用意し、とにかく「森とのかかわりを創る」をモットーに明日を見つめている。



僕たちの森ができたぞー。里山の完成を喜び合う子どもたち

これら数々の活動は、参加した町内外の人たち、とくに本州の都会人に好評で、森のある暮らしに魅せられて下川に移住した人たちはこの10年間で60数組にもものぼっている。これに並行して、町の「森林のあるまちづくり」にも一層力が入り、コンクリート建ての役場庁舎の床面をすべて地元産のフローリングに張り替えたほか、応接カウンターやいすも下川産の木材を使用。さらに図書館や公民館も地元産の木材で建てるなど、「森林のまち」のイメージ

アップに懸命。一般家庭も割り箸に、地元産木材を使うなど、町をあげて協力的だ。

■ 混然一体 まちづくりの真髓ここに

下川町で「森の生活」活動を続ける魅力について麻生理事長は「下川はチャレンジ精神が旺盛で、何でも前向きにとらえる土地柄。行政も企業も町民も、我々、ヨソ者を温かく迎え入れてくれ、ヨソ者のアイディアにも積極的に耳を傾け、理解しておしみなく力を貸してくれるすばらしいまち」と高く評価し、「今後もNPO活動に全力を尽くしたい」ときっぱり。

「森の生活」の財政は、いまのところ独自事業と委託事業その他で十分とはいえないがますます。活動資金が不足気味なのでもう少し独自事業として自治体、学校、企業などへの出張授業や森林経営の実践活動を増やし収入増につなげたい、としている。

いずれにしても自治体と地域とNPOが、混然一体となって突き進む姿に、今日のまちづくりの真のあり方を見る思いがした。

■ 連絡先

〒098-1204 上川郡下川町南町477

NPO法人 森の生活
理事長 麻生 翼（あそう つばさ）

TEL/FAX 01655-4-2606

Email : tsubasa0831@gmail.com

URL : <http://morinoseikatsu.org/>